

日常歯科臨床におけるCT, MRIの活用法



九州歯科大学口腔診断学講座 画像診断学分野

講師 田中 達朗

略 歴

平成8年 九州歯科大学卒業
平成12年 九州歯科大学大学院歯科放射線学専攻博士課程修了
平成12年 九州歯科大学 助手
平成16年 九州歯科大学 講師
現在に至る

医学の分野では、画像診断の技術は極めて進歩が著しい分野です。これは、歯科領域においても同様で、近年の歯科用コーンビームCT (CBCT) やマルチディテクターCT (MDCT) により描出される歯牙や顎骨の三次元的画像の描出などは目を見張るものがあります。また、MRIでは顎骨周囲の軟組織を高い組織コントラストで描出することが可能です。しかしながら、これらの最新の機器は導入コストや設置スペースなどの点から、すべての歯科医院が気軽に導入し利用できるというものではありません。そのため、一般的な歯科診療においては、今後もデンタル・パノラマエックス線写真が画像診断の中心的役割を果たしていくものと思われます。また、それゆえに、CT、MRIの画像に抵抗感をお持ちの先生がいらっしゃるのも事実かと思えます。そこで、今回の講演では、歯科領域の正常解剖像や日常診療で遭遇する各種症例について、デンタル・パノラマエックス線写真とMDCT、CBCT、MRIを比較しながら、それぞれの画像における特徴、有効性、限界について説明する予定です。その際に、CT、MRI画像への抵抗感を払拭する為に、それぞれの画像を診断する手法についての説明も併せて行う予定です。これにより、明日からの日常歯科臨床の画像診断において、CT・MRIも必要に応じて選択肢の一つとして頂けるような講演にしたいと考えています。また、時間の許す範囲内で、CT、MRIを用いた歯科関連の研究についても紹介させて頂きたいと考えています。